

THE COFFEE TIMES

Economics

- Coffee -

Society -

Project

TAKE
FREE

MEXICO

SAN PABLO

V o l .

05

2019

About Mexico

- ・人口:約1億2,920万人(2017:国連)
- ・首都:メキシコシティ
- ・言語:スペイン語
- ・主要産業:石油、製造業など
- ・名目GDP:1兆1,510億ドル(2017:IMF)
- ・経済成長率:2.1%(2017:IMF)
- ・失業率:3.42%(2017:INEGI)

Coffee in Mexico

- ・生産量(2018/19):450万袋(各60kg袋)estimate
- ・生産国ランキング(2018):第9位(中米で2位)

現在、メキシコでのコーヒー産業は、同国南部の4つのエリア(チアパス、オアハカ、ベラクルス、プエブラ)が中心となっており、多くはオーガニックコーヒーやフェアトレードコーヒー等の認証コーヒーのマーケットでシェアを占めています。それは、メキシコでのコーヒー産業の歴史を振り返ると見えてくる、行政の支援が途絶えた後、独立した環境下で栽培を続ける生産者とそれらの人々をサポートする組織の努力の賜物といえるかと思います。ちなみに、現在でもコーヒー産業の従事者の大半は小規模農家で、行政サービスのあまり行き届いていない貧困地域での生産となっています。

まずはメキシコでのコーヒーの歴史をご紹介します。『スペインからの入植者たちによってもたらされたコーヒーを小規模生産者が少しずつ生産を拡大させていましたが、1980年代の政府のデフォルトにより一端は激減した生産量を、協同組合や市民団体の活動により、世界第9位の生産量にまで回復した。』という流れです。



メキシコに初めてコーヒーの木が植えられたのは、18世紀後半、スペイン人の入植者がキューバやドミニカ共和国から持ち込んだものがルーツとなっています。

その後、1790年代に最初のコーヒー農園がベラクルス南部に開園されます。他のカリブ海諸国や中米諸国と異なり、メキシコに移住してきたスペイン系の人々は、植民地時代が終わってからずっとメキシコ(南部)での土地所有を続け、コミュニティの形成などに取り組んでいます。

スペインからの独立後、フランスやアメリカなどとの領土問題で不安定な時期もありました。この頃、メキシコ南部では先住民とその他入植者たちとの間で土地の分割が進められ、人々がまじめにコーヒー栽培に向きあい、コーヒー農園が急速に拡大していききました。

その後、グアテマラとの国境問題が解決すると、未登記だった国境付近でもコーヒー

農園が始められ、農園主たちはより積極的にコーヒー事業への長期的な投資に取り組めるようになっていきます。

1900年代中頃からにメキシコ国立コーヒー研究所が開設され、生産者への技術的なサポートや市場への輸送手段の供給などを進めていました。一方でICA(ロンドンに拠点を持つコーヒー事業者の共同団体)と協力することで、メキシコのコーヒーを国際市場へ供給するべく活動を進めていた結果、コーヒーの生産量は一気に拡大していききました。しかしながら、政府のサポートはコーヒー事業を対象としたものとどまり、主要産地のチアパスやオアハカなどでは公共サービスが欠如したままで、貧困地域から抜け出せずにいました。

その後、1980年代、海外債務の拡大やオイル価格の下落により、メキシコ政府がデフォルト状態に陥ったのをきっかけに、コーヒー産業はより自由化に向けた取り組みが進められるようになりました。

その後の約10年、メキシコ政府はコーヒー生産者へのサポートをわずかながら続けていたが1989年にINMECAFEの継続も不可能となり、サポートが終了しました。期を同じくしてICAもなくなることとなり、これらの影響は小規模農家にとって計り知れないものでした。

1985年の一次産品の輸出総額の内、コーヒーは882百万ドルを占めていましたが、1991年には370百万ドル以下まで落ち込んでいます。INMECAFE不在時、ブローカーにより取引は媒介されていたものの、農民たちは情報の欠如、市場へのアクセス方法の欠如などにより、コーヒーの販売が難しくなっており、状況の改善が急務とされていました。

INMECAFEの崩壊前から、政治不安の影響を受けにくい民間組織の必要性は明確でしたが、1990年頃よりCEPCO(the Oaxacan State Coffee Producers Network)やUICIR(Union of Indigenous Communities of the Isthmus Region)といった団体の活動が小規模農家にとって大きなサポートとなり、コーヒーの生産に向けた前向きな取り組みが始められました。

CEPCOは1993年からオーガニック作物の生産を推進し、フェアトレードによって得た利益はメンバーの為に使われています。

具体的には女性組織の促進や技術サポート、生命保険、インフラ整備などです。現在90%は2ヘクタール以下の小規模農家で組織されており、34の地域団体で構成されています。これらの協同組合は安定した販売価格と収穫前の資金調達を可能にし、コーヒーの輸出入取引を正常な状態に近付けることに貢献しています。

また、INMECAFEに代わり生産者をサポートするだけでなく、有機コーヒー業界でのポジションを確立させ、環境への取り組みや学校、病院などの社会サービスの提供も行い、経済的にも多様な支援を行っています。このようなメキシコでの協同組合や市民団体の成功事例は世界で最も魅力的な社会運動としても注目されています。



ここまで見てきたように、メキシコは政治的な動向に左右されながらも現在はオーガニックコーヒーという一つの強みを活かし、主要なコーヒー生産国の一つとしてのポジションを担っています。

次に政治的な動向や社会情勢、そしてコーヒーの生産地域が抱える問題などを取り上げながら、メキシコの課題解決に向けた民間プロジェクトを少しご紹介します。

まず初めに、数値データを見ていきます。メキシコの名目GDPは2017年で1兆1,510億ドルです。一人当たりGDPは9,319ドル。以前にもご紹介したSCAのEric理事は、2018年のシンポジウムにて、下記のような情報を紹介しています。

1世帯当たりの【132lb(60kg)での袋数 / コーヒー豆重量 / 昨年の平均売買価格 (\$/lb) / 年間売上額⇒farmgate price(農家の最終受取額) / 法的な年間最低賃金 / 所得-最低賃金】をまとめると、メキシコは、【11袋 / 1,452lb / 1.4\$/lb / 2,032\$⇒1,220\$ / 1,788\$ / ▲568\$】となります。ここから、コーヒー生産者の年間の所得は、他の事業からくる所得を加味したとしても、おそらく国全体でみた1人当たりGDPを大きく下回るものになっていることが推測できます。

尚、国際貧困ライン(1日1.9ドル以内で生活を強いられる人口)を基準に考えた時の貧困率は、人口に対して2008年44.4%、2010年46.1%、2012年 45.5%、2014年 46.2%、2016年43.6%と一定の範囲にとどまり、全体の半数近くが貧困ラインを下回っています。

一方で、近年世界の主要自動車メーカーがメキシコに進出しつつあります。その理由としては、北米自由貿易協定に参加していることや中南米との貿易協定、各国との貿易自由協定(FTA)や経済連携協定(EPA)の締結など、世界各国との自由貿易網があるメキシコを生産拠点にして世界での貿易取引をスムーズに行う構想がグローバルカンパニーにとっては描きやすいということです。

このように世界の自動車メーカーのメキシコ進出など、海外からの投資が進む中、メキシコ国内の高い貧困率や後に触れる政治汚職、麻薬カルテルなどカントリーリスクにも注視が必要です。

ここで、メキシコの大きな社会問題について触れてみたいと思います。

『所得格差、政治汚職、教育、貧困』の4つが特に挙げられます。

工業化が進み経済的には発展しつつある一方で、貧困率が非常に高いメキシコでは、所得格差激しく、それが原因でデモンストレーションが頻繁に発生し、またアメリカへの移住を考える市民が増えるなど、社会基盤の揺らぎが続いています。

また、デモやアメリカ移住の理由としては慢性的な汚職もあげられます。Transparency Internationalによる2014年の政治腐敗指数の調査では、驚くことに100ポイント中35ポイントの評価で175か国中103番目の透明性という不名誉な評価となっていました。

その理由として2000年に終結するまで約70年間一党による政治運営があったことがあげられます。規制解除後もいったんは別政党が第一党となり政治運営を行ったものの、現在はまた元の政党が返り咲くなど、市民の信頼を回復するような変化はあまりみうけられません。こうした状況に対する社会運動やデモでは、透明性及び誠実な政府を求めています。

また教育面に関しても、汚職は影響しており、以前の教育労働組合は機能せず(トップが自身の私欲のため資金を流用していたこともあります)、現在のメキシコの教育水準は低く、中退するものも多く、全体の37%が高等教育を受けているのみです。初等教育の就学率は100%を超えているものの、悪化傾向にあります。

この水準は34のOECD加盟国の中では下から2番目の水準です。このような低い教育水準は国の発展や人々の機会均等を実現する妨げとなり、貧困や不平等といった問題を悪化させる要因となります。

このように、ややネガティブな側面が依然として残るメキシコの現状ではありますが、比較的自由貿易の体制が整っているという経済的なメリットがあり、また経済大国アメリカとの距離が近いという地理的要因も影響し、今後もポテンシャルが期待できる国ではあります。

《Mois Cherem (ENOVA)》 education
ENOVAとは、恵まれない地域社会に対してテクノロジーを用いて教育へのアクセシビリティを改善させるための事業です。

2013年には世界経済フォーラムでSocial Entrepreneur of the Yearを受賞するなど、多くの受賞歴のある世界的にも注目されているITを教育分野に活かした事業モデルをとっています。

具体的には、電気通信、ソフトウェア開発、オペレーティングシステム、技術サポート、新しい技術やシステム情報の分析などに取組、より良い学習環境の提供を行っています。

欠陥の多いメキシコの教育システムから離れてしまった低所得地域に教育センターを設立し、様々な分野のeラーニングコースを設定し、子供たちがモチベーションを維持できるような内容で学習するためのオンラインシステムにも工夫を凝らしています。また、生徒が利用した情報を元にシステムの更新が行われ、常にシステム面に対する配慮もなされています。これらの教育センターは、事業開始後、最初の4カ月で10つの教育センターをスタートさせています。この事業の成功はメキシコの経済及び社会の発展に対してとても大きなインパクトをもっており、今後の発展が気になる事業です。

《Patrick Struebi (Fairtrasa)》 agri business

小規模農家を貧困から脱出させるためのサポートを行う社会的企業です。有機栽培に取り組みたい生産者やそれらを輸出まで行いたい生産者に対して、トレーニングやリソースを提供しています。そして、この事業を通して地域経済の発展、社会貢献、環境保全といったプラスのインパクトも同時に生んでいます。

2005年に設立されてから、現在では12か国で展開するグローバルグループで、現在では6500以上の小規模農家と連携し、ラテンアメリカで最大級のオーガニック、フェアトレードフルーツの輸出を行っています。

事業開始当初は、世界的なフェアトレードムーブメントの一部でありましたが、世界中の小規模農家の生活の改善を目的としたこのムーブメント、フェアトレードプレミアム(価格)では継続的な発展には不十分だと気づき、地域コミュニティや農家が期待している包括的な解決策を模索し、特徴的なモデルの構築に至っています。

この開発モデルでは、Fairtrasaの専門家だけでなく、パートナーの開発機関と協力しながら個々の農家にあったトレーニングを行い、輸出の専門業者や農業に関する起業家となれるよう後押しを行っています。

その結果、この開発モデルは6か国まで活動を広げ、小規模農家の収入を10倍にまで成長させ、農家やコミュニティの何千人もの生活に対して、根本的で実現性のある継続可能な変化を生み出しています。

社会的な基盤を作る子供たちへの教育環境を整える事業、そして多くの小規模農家及び地域コミュニティへのサポート・エンパワーメントを行う事業、それぞれ今後の発展の下支えになる重要な事業です。これらのモデルはメキシコ以外の国、アジア、アフリカの途上国でも役に立ちそうなモデルケースになり得ます。

今回は2人の起業家にしか触れることができませんでしたが、メキシコでは学生起業家も活躍していると話に聞きます。ご興味ある方は、是非チェックしてみてください。

SAN PABLO

メキシコ・サンパブロ農園は、オアハカ州プルマ地区に位置しています。1920年からコーヒー農園をはじめ、現オーナーのカルロス氏が1960年から有機栽培をすることを決意し、現在まで継続されています。

年間生産量は90t程度しか生産せず、産地の特定ができるスペシャルティコーヒーです。サンパブロ農園で生産されるほとんどのコーヒーはティピカ種でシェードツリーを使用し、暖かく恵まれた気候、800～1300mの高地で栽培されます。

また、2018年のメキシコで開かれたCup of Excellence(コーヒー品評会)では見事入賞し、丁寧な生産スタイルと品質維持を両立させています。

*弊店ででの使用品種とは異なる品種での入賞です。

(商品情報)

- 地域：オアハカ州プルマ地区
- 農園：サンパブロ農園
- 標高：800m～1300m
- 精製方法：水洗式
- 品種：主にティピカ
- 香り：ジャスミン、バニラ、キャラメル

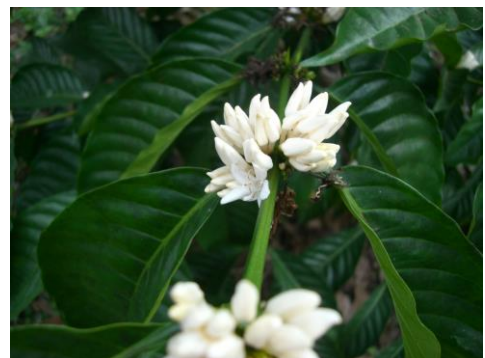


EL TRIUNFO CAFEINLESS

メキシコ・チアパス州のエル・トリウンフォ環境保全団体に加盟する79農園が生産したコーヒーを、メキシコにあり様々な有機認証を取得している「Descamex社」がマウンテンウォーター製法という方法で科学的な薬品を一切使用せず、安全にカフェイン除去したコーヒーです。(カフェイン除去率 99.9%)

メキシコの天然水を使い、天然セルロースと活性炭をもとに作られた特殊なフィルターによってカフェインを除去。カフェイン以外の成分の損失を抑えられるため、コーヒーの味わいと香りを残したカフェインレスコーヒーに仕上げられています。

健康上の理由でカフェインの摂取を控えたい方や妊娠中・授乳中の方などにもオススメです。日常的にコーヒーをよく飲まれる方にもスペシャルティコーヒーとして十分にお楽しみいただけるコーヒーです。



(商品情報)

- 地域：チアパス州 アンヘル・アルビーノ・コロソ
- 農園：エル・トリウンフォ環境保全団体に加盟する79農園
- 精製方法：マウンテンウォーター製法
- 香り：バタービスケット、バニラ、ローストキャラメル